

第 6 回日本精神科医学会学術大会（広島）

平成 29 年 10 月 12 日（木）～13 日（金）

「生きがいに関わる作業療法を提供後、うつ状態が寛快した認知症高齢者の
1 例」

医療法人 聖志会 渡辺病院 作業療法課
鹿田美空 林田綾 池添陽介 菊池多恵

【はじめに】うつ状態を伴った認知症高齢者にライフレビューを行なうことにより、心因を明確にし、それをもとに作業療法を行なった。その結果、うつ状態が寛快した認知症高齢者の 1 例を経験したので若干の考察を加え報告したい。

【倫理的配慮】個人情報取り扱い留意し、施設長の許可を得た。

【症例】A 氏、80 歳代後半、女性、アルツハイマー型認知症。

【初診時主訴】「死にたい」という希死念慮。

【家族歴】特記すべきことなし。

【既往歴】両大腿骨骨折術後。

【生育・生活歴】幼少時から日本舞踊を習い、10 歳後半には師範となった。X-4 年まで特に問題なく 30 人の弟子を抱え師匠をしていた。

【現病歴・診断・治療方針】X-4 年自宅で転倒、それを機に施設へ入所。X 年、不穏、徘徊が見られたため、当院外来受診した。HDS-R：7 点、頭部 CT にて脳萎縮を認めた。抑うつ状態を伴ったアルツハイマー型認知症と診断され、活動性維持・向上のため、作業療法参加を促すも拒否し、面接をすると「この足では何もできない。死にたい。」と泣いた。そこで、適切な作業療法の介入方法を明らかにするため、ライフレビューを行なった。

【ライフレビューの結果】「踊りとの出会い」「芸名の由来」を頻回に語り、踊りの話が中心であった。

【介入方法】自尊心を回復する目的で、開催される「夏祭り」について、①盆踊りの選曲の相談②ホーム職員への踊りの指導を依頼した。

【経過】A 氏は「炭坑節」を提案し、スタッフに積極的に踊りを指導した。また、ホーム主催のファッションショーでは、自ら着物姿になり、他の入所者に披露した。その結果、「嬉しくて涙が出る」「踊りに出会えて感謝」といった。

【考察】ライフレビューを行ない、うつ状態の心因を明らかにし、スタッフが舞踊に関して相談し指導される立場となることにより、過去の自尊心が回復し、スタッフとの信頼関係も構築でき、うつ状態が寛快したと考えられた貴重な一例であった。